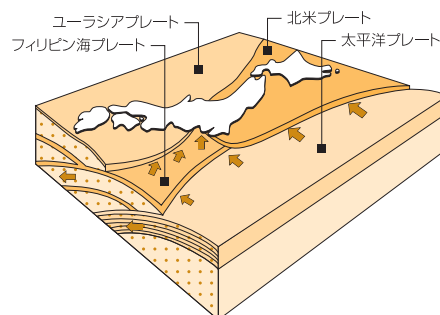


## 地震

### 地震の発生メカニズム

地球の表面はプレート（卵の殻をイメージ）と呼ばれる厚さ10～100kmの岩盤で覆われています。そのプレートは10～20数枚あり、日本は太平洋プレート、北米プレート、ユーラシアプレート、フィリピン海プレートの4つのプレートが折り重なる場所に位置しています。

海溝型地震は、これらのプレートがそれぞれ違う方向に年間数センチ移動しているため、プレートが動きだすときに巨大な力が働いて引き起こす地震です。また、内陸あるいは陸地に近い海底のプレートとプレートがぶつかり合い、その力により活断層がずれて起こる地震と、海洋性プレートの境界やプレート内での地震断層の発生による地震は直下型地震といえます。阪神淡路大震災や新潟県中越地震、福岡県西方沖地震は活断層のずれにより起きた直下型地震です。



### 最近の災害

#### スマトラ沖地震（大津波）

- 平成16年12月26日
- マグニチュード（地震規模）9.3
- 震源地はインドネシアスマトラ島西沖のインド・オーストラリアプレートとユーラシアプレート境界
- 死者：約23万人  
行方不明者：約46,000人
- 大津波により広域に甚大な被害が発生。情報伝達の不備、災害に関する知識（Tsunami：津波）の欠如、世界的な観光地であるが対策が不十分であった。今年に入っても4月現在で140万人が避難生活を送っている。

#### 新潟県中越地震（直下型地震）

- 平成16年10月23日
- マグニチュード（地震規模）6.8 最大震度（揺れの強さ）7
- 震源地は新潟県小千谷市・川口町（深さ13km）
- 死者：65人 負傷者：4,795人
- 全半壊家屋：14,802棟
- 直下型地震の大きな地震であったが、太い柱、軽い屋根の雪国仕様であったため、阪神大震災よりも住宅の被害は少なく、救助や救援は阪神大震災の教訓が活かされ、避難所運営などは地域のコミュニティの力が発揮された。山間部の被害があり、孤立化した地域への対応や寒冷地の避難生活に対する課題が残った。



新潟県中越地震時の様子

## 風水害

日本列島は四方を海で囲まれているため、高潮などの被害をうける沿岸部が多く、さらに、急峻な山間地域の多いところでは、土砂災害が多発し、大きな河川がある平野部では住宅地が集まっているため洪水災害も多く発生しています。一方では、生活域を広げるために土砂災害の危険性のある山間地の開発も進むなど、日本は風水害の影響を受けやすい地形的特徴と社会的条件をもっています。

風水害は、降雨が起因となって発生する災害です。例年、梅雨前線が日本列島に停滞して激しい雨を降らせます。8月から10月頃までは熱帯性低気圧が台風となって襲来し、広い地域に多量の雨を降らせます。災害が発生するときの雨の降り方はいつも同じではなく、豪雨や長雨といった特徴を持っており、梅雨前線や台風の影響以外にも発達した低気圧や雷雨な

どの局地的豪雨によっても発生します。長雨は梅雨時期に発生しやすく梅雨末期には集中豪雨となることもしばしばあります。九州での豪雨災害はその典型的な災害といえます。

#### 平成18年7月豪雨（気象庁命名）

- 7月15日～24日
- 7月15日頃から梅雨前線が中国、北陸、中部地方に停滞し豪雨をもたらした。24時間降水量は観測開始以降最大値を記録。島根、福井、長野で土砂災害による人的被害や家屋の損壊が発生。最も被害が多かったのは長野県で、死者不明者11人、床上浸水1,043棟。九州では7月21日頃から梅雨前線が停滞し豪雨をもたらした。23日までの降水量は620mmを超えた。各地の堤防からの越水や土砂災害により鹿児島県では死者不明者5人、全壊家屋27棟、床上浸水1,629棟の被害となった。